

新たな文化施設整備に関する基本構想策定スケジュールについて

資料2-1

2025.1.15 文化交流課

	R6						R7			
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
有識者会議	<ul style="list-style-type: none"> ●25日第2回会議 ・既存施設利用実態 ・施設利用者にニーズ ・新たな文化施設のあり方 ・基本構想骨子（案） 			<ul style="list-style-type: none"> ●15日第3回会議 ・ワークショップ等結果報告 ・新たな文化施設の機能・規模 		<ul style="list-style-type: none"> ●第4回会議 ・基本構想（素案） 		<ul style="list-style-type: none"> ●第5回会議 ・基本構想（案） 	<ul style="list-style-type: none"> ●パブリックコメント 	<ul style="list-style-type: none"> ◎基本構想策定

- ・これまでの有識者会議意見、文化団体ヒアリング結果等から機能・規模について議論
- ・新たな文化施設の基本コンセプト、機能・規模について議論
- ・シナリオ（大まかな時間軸）について共有

- ・新たな文化施設のコンセプト、既存文化施設の方針（時間軸含む）の決定
- ・基本構想（素案）について

- ・基本構想（案）最終議論
 - ▶機能・規模
 - ▶立地
 - ▶運営形態等

＜新たな文化施設の整備に関するワークショップ開催概要＞

I. ワークショップの目的と位置づけ

鳥取市（以下、「市」という。）では、文化芸術の振興により、市民の創造性と豊かな心、地域への愛着や誇りを育み、市民やまちの活力を高めることで、市民にとっても訪れる人にとっても魅力的なまちとなることをめざした取組を推進している。一方で、市民の文化芸術活動の拠点となる鳥取市民会館、鳥取市文化センター、鳥取市文化ホール、鳥取市福祉文化会館は、開館から約 50 年が経過し、施設・設備の老朽化等の課題を抱えている。さらに、人口減少・高齢化の進行による市の歳入の減少が見込まれることから、市内の施設を統廃合することにより総延床面積を削減することで、将来に向けての建物の更新経費や維持管理費を縮減していくことなどが必要となっている。

このような背景の中、市は令和 6 年 3 月に「ホール等文化施設のあり方に関する基本方針」（以下、「基本方針」という。）を策定し、中心拠点の 4 つの施設を再編し、文化芸術振興の拠点となる新たな施設の整備について検討する方針を示した。

基本方針で示した内容は市民に広く周知をしつつ、市民の様々な意見を聴取し、「新たな文化施設の整備に関する基本構想」（以下、「基本構想」という。）の策定をはじめとした今後の取り組みに反映することを目的としてワークショップを開催した。

II. 開催スケジュール

(1) 第 1 回

日時： 令和 6 年 10 月 26 日（土）10 時～12 時
場所： パレットとっとり市民交流ホール
対象者： 鳥取市に在住/在学の 10・20 代
参加人数： 10 名

(2) 第 2 回

日時： 令和 6 年 11 月 16 日（土）10 時～12 時
場所： 市役所本庁舎 2 階 多目的室 1
対象者： 鳥取市に在住/在学の方
参加人数： 9 名

(2) 第 3 回

日時： 令和 6 年 12 月 7 日（土）10 時～12 時
場所： 市役所本庁舎 2 階 多目的室 1
対象者： 鳥取市に在住/在学の方
参加人数： 11 名

III. 実施体制

主催者： 鳥取市企画推進部文化交流課
運営サポート・ファシリテーター： PwC アドバイザリー合同会社

IV. 実施結果

(1) 第1回

鳥取市の中心拠点の対象4施設の紹介や基本方針の概要説明を行った後、グループにわかれて2つのテーマについて議論し発表を行った。

① 前提情報の説明

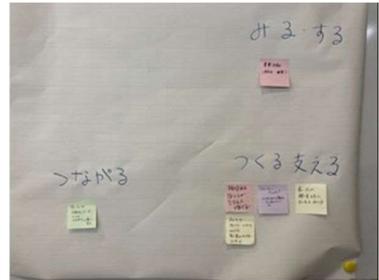
市より市内の文化施設の現状や基本方針の概要について説明を行った。

② グループワーク (テーマ①)

『今後文化施設でどのような活動をしたいですか？今やりたくてもできない活動はありますか？』というテーマでグループごとにディスカッションを行った。ディスカッションした内容をもとに、グループごとに意見を取りまとめ、参加者全体へ発表を行った。

【発表内容：Aグループ】

- みる・する
 - 音楽活動（吹奏楽）の演奏会や練習を行いたい
- つながる
 - 気軽に立ち寄って、交流ができるような場が欲しい
 - 同じような活動している人とのつながりの場が欲しい
- つくる・支える
 - 音楽、演劇、華道など色々な文化活動を一度に同じ場所で行えるようなイベントがしたい
 - 若い人が興味を持ってもらえるイベントを開催したい
 - 文化センターでのギャラリーコンサートの様な安く、参加しやすいコンサートがしたい
 - 演劇の活動を支える技術的スタッフを増やしたい



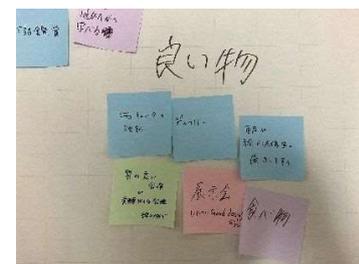
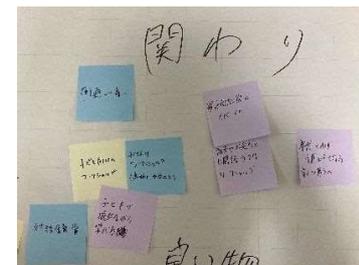
【発表内容：Bグループ】

- する
 - 伝統芸能（和太鼓）をもっと身近に感じられるようなイベント（体験会等）をしたい
 - キュレーター（主に博物館や美術館などで作品収集や研究、調査を行う）活動
- みる
 - 流行りを取り入れた展示会（Good design 賞の小規模版のような展示会）があれば行きたい
 - 対話鑑賞（対話しながら舞台等を鑑賞）等を通じての学び
- ささえる
 - 伝統芸能（音楽）の継承に係る活動
 - 美術・芸術への敷居を低くする



その他テーマ②に繋がる意見

- 身近に感じられる文化施設
 - （アーティストのみならず）市民の絵や作品の展示
 - 大人も子供も入りやすい雰囲気施設の
 - 気軽に使える文化施設
 - 劇場外での活動の場
- 関わり（ささえる、ひろげる）広げる
 - 年代問わず利用できる施設
 - 子供向けのワークショップ開催
 - 子供が遊びながら学べる場
 - 親子参加型のイベント
- 学びの場
 - 文化芸術を学ぶ機会
 - 中高生向けの、美術・芸術に触れる体験の場
 - 施設での防災やお金に関するワークショップ
- 規模
 - （初心者総層に）ちょうど良いサイズの文化施設
 - 小規模の演劇公演ができる施設
- 良いもの（質）
 - 初めてでも質の高い公演や実験的な公演を行える場
 - イベント開催に関するサポート体制の整った施設



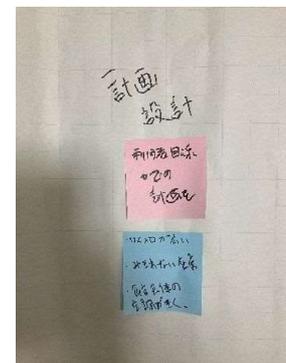
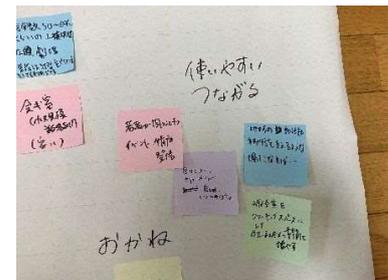
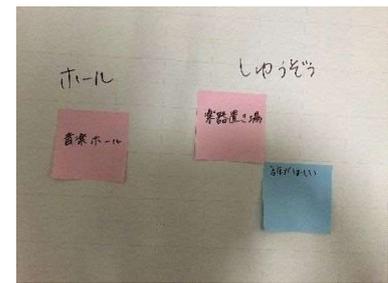
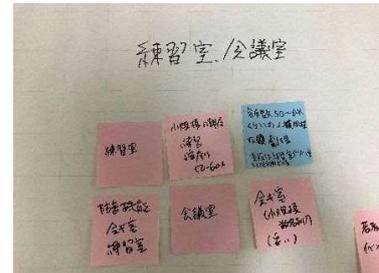
③ グループワーク（テーマ②）

『やりたい活動をかなえるためにはどのような場所や空間が必要ですか？』というテーマでグループごとにディスカッションを行った。ディスカッションした内容をもとにグループごとに意見を取りまとめ、参加者全体へ発表を行った。



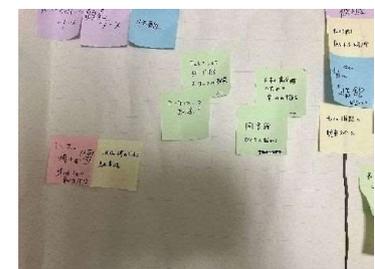
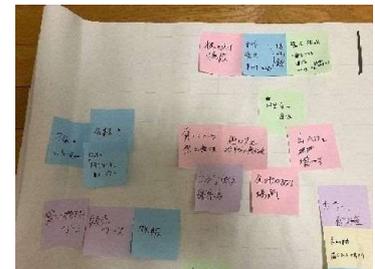
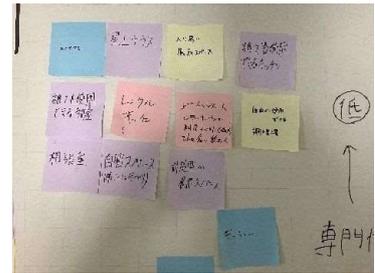
【発表内容：Aグループ】

- 駐車場
 - 大きな駐車場（無料）、広い駐車場
 - 演奏会（吹奏楽）の時に、駐車場がないため、帰ってしまうケースあり
- 練習場・会議室
 - 団体やNPOの活動で使用するための会議室。2-3人で使うくらいの小さな会議室もあると良い
 - 客席数50-60人位の小規模な劇場（市民会館や文化ホールで行う規模の演劇でなく、少人数を対象にした演劇）。普段は練習室として利用できるような兼用スペース・空間が欲しい。練習室にボタンさえあれば演劇は可能となる
 - 防音機能を備えた練習室（今の練習室はホール使用時に使えないなど不便）
 - 複数の会議室や練習室。ひとつずつは小さくてよい。可変性のあるものとし、必要に応じて大きく使えるようにしてほしい
- ホール
 - 演奏会ができるホール。音響がある程度良ければ良い
- 収蔵
 - 楽器置き場。今は文化ホールにあるが、同様のものがほしい
 - （演劇） 備品などがおける倉庫が欲しい
- 使いやすさ・つながる
 - ふらっと立ち寄ることのできる空間。WIFIや電源があり、コミュニケーション・交流ができる場があると良い
 - ワークスペースとして使えるような空間があってもよい
 - NPOなど、お金がない団体・利用者も多い。料金を安く使いやすくしてほしい。今の市民会館、文化ホールは高い
 - 若者が関心を持つようなイベントの実施や情報発信を行う機能があると良い
 - 部活動の地域移行を支えられるような場にならないか
 - 研修室をコワーキングスペースにして、学生や社会時が平日に気軽に使えるようにできないか。平日の利用を増やす
- 施設計画の方法
 - 計画段階から利用者の声を聞いてほしい。利用者目線の施設計画を。
 - 搬入口が広いなど利用のしやすさ、館全体の空調の良さなど快適性の向上など、今の施設の課題も多い。演者、技術スタッフ、観客など、多様な人の意見を踏まえた計画を。



【発表内容：Bグループ】

- 気軽（安価、入りやすい、借りやすい）に利用してもらうための工夫が必要
 - 申請の手間、利用料、利用可能な日程等の借り際の壁を減らす（申請、料金、日程等）
 - 簡単に借りられるシステム（ウォークイン型の部屋があっても良いか）
 - 出入口を増やすことで（通り抜けも可能にし）施設に入る人の数を増やす
 - 車を所有していない/運転できない人向けに、施設へのバスを増やす
- あると良い場所・空間・設備（人含む）
 - 用途によって大きさを変えられるホール、小劇場（ブラックボックス、稼働席、平土間、専用の搬入口・楽屋）
 - 外から活動が見える部屋（練習室等）
 - （触れたりできる）体感型の展示スペース
 - 市民の好きなことができる多目的スペース
 - 着物の着付け等も可能な和室、子供も楽しめるような遊び場、託児所、子供食堂、レンタルキッチン
 - ショップ・販売ブース（作品等も販売）
 - 科学・歴史・美術・芸術の博物館、美術館、科学館
 - 定期的に利用する人向けの倉庫（備品等の保管）
 - 自習可能なスペース（机が仕切られているとお良い）
 - 本屋・図書館、DVDを借りられる・見られる図書館
 - イベントの開催をサポートできる人（キュレーションができるスタッフ、アーティスト）が施設にいと良い、相談室
 - カフェや飲食可能なスペース（可能であれば夜に飲めるお店）
 - 十分な駐車場スペース、SNS映えするスペースやスポット
- 学びの場
 - 人材育成のための学びの機会、文化芸術の魅力を伝える・学べる
 - イベント開催の方法
- 外観・デザイン
 - 建築家を選出し、デザインにこだわってほしい
 - ユニークなデザインであれば、SNS等を活用して利用客を増やせるのでは



(2) 第2回

第1回ワークショップは参加者を10・20代に限定して開催していたが、第2回は全世代を対象として開催した。第1回ワークショップにて聴取した若年層の意見を踏まえて、各グループで鳥取市の今後の文化芸術活動の変容や、コンセプトのキーワードについて議論し発表を行った。

① 第1回ワークショップの結果共有

第1回ワークショップ参加者より、第1回ワークショップで協議した事項が全体に共有された。

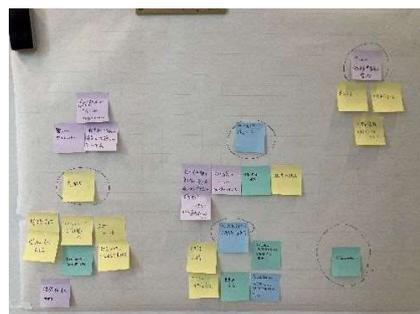
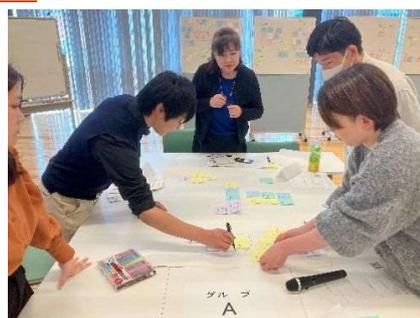
② グループワーク (テーマ①)

『今後鳥取市内の文化芸術活動はどのようになっていくだろうか?』というテーマでグループごとにディスカッションを行った。第1回ワークショップのテーマ①『今後文化施設でどのような活動をしたいですか? 今やりたくてもできない活動はありますか?』の結果も踏まえ、グループごとに意見を取りまとめ、参加者全体へ発表を行った。



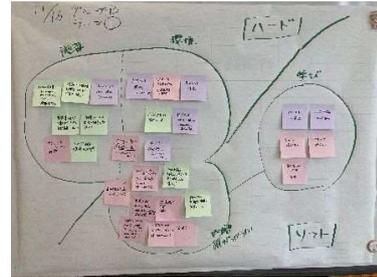
【発表内容 : A グループ】

- アートの価値観の変化
 - 触れるアート、味わうアート、分野横断 (理系×アートなど)
 - 市内 (東部) に美術拠点が無いので、できたらいいな
- 担い手が減っていく
 - 人が減っていくため関係人口も減る、活動団体の減少
 - 歴史の継承
- ジャンルをまたいだ活動がうまれる
 - 部活交流、部活動の地域移行に伴う活動場所の確保
 - 年代を超えた交流、異業種交流
 - 貸館対応にとどまらない館自ら仕掛けを行う
- 参加型
 - 関係人口・県外の人との交流
 - インクルーシブ (障害者) の方
 - 子ども、地域をまきこんだ活動、子ども×アート
 - 微分帖 (絵本合同制作)
- その他
 - 好きな人が好きなきにできるようになればいい
 - わかる人だけがするという感じになりそう、無くても生きていける
 - 発信のやり方がかわる



【発表内容：Bグループ】

- 学び
 - 学外活動の推進
 - レッスン・体験などができる
 - 現状は小規模団体が各々で活動している、学びの場がない⇒クオリティが伸びない・県外に出ていくしかない
- 誰がつかうか？
 - 交流拠点、生涯学習、芸術
 - 子育て世代、高齢者専用の利用スペース
 - 市の施設として料金は出来るだけ安く、使用しやすいように
- 必要となる機能（ハード）
 - 使いやすい（料金が安い、集まりやすい、借りやすい）
 - 様々な用途で使える 大小の部屋、グループ活動に使える会議室等
 - 参考事例：スタディサークル@スウェーデン：3人以上でサークル登録をすると自由に使える
 - 参考事例：京都芸術センター 利用者はアーティスト、ただしワークショップを市民に提供することで格安で利用可
 - 発表や練習ができる環境（合唱・演奏・演劇）
 - ホールの規模 500~1000人、300~500人、300人程度の収容力
 - 楽器等、収納できるスペース付きの音楽演奏小ホール
 - 駐車スペース、郊外の駐車場から施設までのシャトルバス
 - 施設に休憩できる喫茶、レストラン



③ グループワーク（テーマ②）

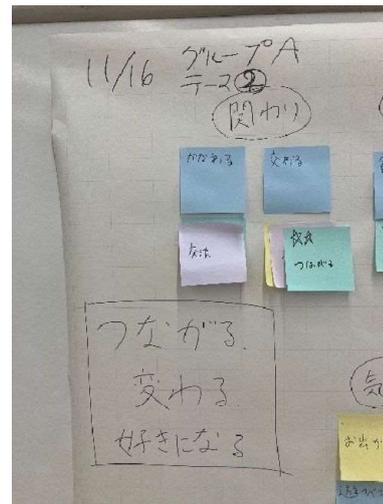
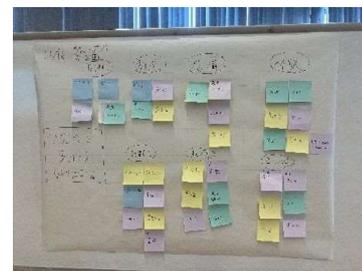
『新たな文化施設のコンセプトとなるキーワードを考えてみましょう』というテーマでグループごとにディスカッションを行った。議論にあたっては、参考資料として他自治体の文化施設のコンセプトをまとめた資料を配布のうえ、各グループで議論し取りまとめた結果を参加者全体へ発表を行った。



【発表内容：Aグループ】

“つながる 変わる 好きになる”

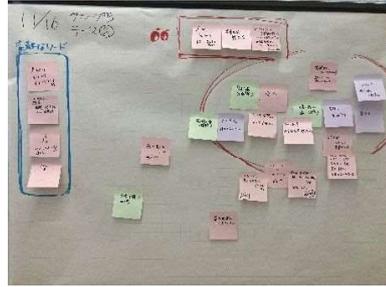
- 関わり
 - かかわる、交わる、交際、つながる
- 創造
 - 創造、つくる、創る
- 感情
 - わくわく、ときめき、好き、楽しむ
- 体験
 - 体験、知る
 - 変わる、学び、深める、広がる
 - ○○×△△が実現する
- 気軽さ
 - お出かけ、散歩、遊び場
 - 敷居の低さ、誰でも、自由
- 五感
 - 見る、観る、見つかる、発見
 - 触る、触れる
 - 変化
- ビジョン
 - 未来に残る
 - 違い、中心
 - オンライン



【発表内容：Bグループ】

“人が見える、活動が見える”

- つながり
 - つながる、集まる
 - 活動を知ってもらう
 - 新規活動者へのアピール
 - PR動画がいつでも流れている
- 誰もが参加しやすい
 - 気軽に参加できる、体験できる
 - 行ったら何かしらやっている
 - 日常の憩いの場
 - 子ども、大人、ベビー、シニア、小中高大学生、若手、障がい者、貧富の差、地域の差・・・)
 - 料金・システムのわかりやすさ
- 学び
 - 学ぶ（生涯学習・人材育成）
 - 既にある団体が使いやすい場所（発表・練習）
 - ハードとソフトの両立
 - 県内他施設との差別化
 - 創り、育てるホール 未完成
- 素敵なワード（鳥取らしさ）
 - 『砂丘』 時間による活動主体の変化⇨きれいな風紋
 - 『鳥』 渡り鳥（行って帰ってくる）、群れる



(3) 第3回

第3回ワークショップは、第2回ワークショップ参加者が引き続き参加したとともに、新たな参加者を迎えて11名（当初は14名の申込）で実施した。他自治体の文化施設等を参考にしながら、第1回・第2回で検討した内容の取りまとめを行い、発表を行った。

① 本日の位置づけの説明

市より基本方針の概要や市の現状について改めて説明を行い、本日の目的について確認を行った。

② 第2回ワークショップの結果共有

第2回ワークショップ参加者より、第2回ワークショップで協議した事項が全体に共有された。

③ グループワーク（テーマ①）

『他都市の施設を見て感じたことをメモして共有する』というテーマでグループごとにディスカッションを行った。事務局から他都市の施設のホームページや写真等が参考として提示されたほか、参加者から参考になる施設について意見を出し合い、良いところ、参考になるところ等について意見交換を行った。

【協議内容：Aグループ】

- アオーレ長岡（新潟県長岡市）
 - 空間が広く、明るく開けたイメージが持てる
 - 半分屋外のスペースとなっており、活動の幅が広がる
 - 1階だけでなく、2階から眺めることもできる。商業施設を取り入れるとさらに楽しそう
- えぞこホール（宮城県柴田郡大河原町）
 - 屋外と接続ができる点（がよい）。面白い使い方ができそう
 - 屋外とつながっていることで大規模イベントにも対応可能
- 水都やながわ（福岡県柳川市）
 - コンテンツによって会場レイアウトが変更可能な点（がよい）
 - ホールデザインも大切だが、コストを下げて必要な環境だけを備えたホールの方が実現可能ではないか（費用面で）
 - 多人数でも使用可能で拡張性もあるため、様々な活用ができる
 - マルチは結果として使えない。音楽は音楽、演劇には演劇の使用が必要
- 高槻城公園芸術文化劇場（大阪府高槻市）
 - スタジオが多い点（がよい）。鳥取市内にはスタジオが少ない
 - スタジオが多数あるのは便利。今は公民館を転々としている
 - 外から見える部屋となっていると、他の活動に対して興味を持ちやすい
 - 外から活動を見れると興味を持たせることができる
- 富山市民創造技術センター（富山県富山市）
 - 練習室、アトリエ、研修室などが30室ほどある施設。練習室も数名の小規模なものから200人ほどの部屋もあり、多様な使い方ができる。学生向け料金が設定されており、数百円から利用可能
 - 市内には練習室やスタジオも少ない状況。公民館や民間のスタジオも使用しているが、空きがない状況。民間は学生にとっては料金が



- 紫波町図書館（岩手県紫波郡紫波町）
 - 官民連携で整備されたオガールプラザの中の一施設。民間が施設を整備・運営し、民間が地代を町に支払っている。施設の一部を町が買い取っており、その一つが図書館。まちづくりと行政の施設の費用負担を軽減しながらうまく実施している事例。
 - 図書館は、産業育成ということに注力し、それに応じた書籍取り揃え、イベントを開催するなどしている。単に図書館をつくるというだけでなく、特徴を生かすための運営が行われている点で有効な事例と思う

【協議内容：Bグループ】

- 山口情報芸術センター（山口県山口市）
 - YCAM のホワイエのような、屋内に大きな階段があってフリー展示・ストリートピアノ・ダンスなどができる・見える+憩いの場（他参考例：こども園かける（<https://s-kakeru.ed.jp/about/>）、スペイン広場）
 - フリースペースは使い勝手が良くて居心地の良いものが欲しい
 - 麒麟 square もそうだと思うけど、なるべく多目的に使えるスペースがたくさんあって組み合わせられるキューブだと良い
 - YCAM は教育普及担当のスタッフが充実している
- 延岡市駅前複合施設 エンクロス（宮崎県延岡市）
 - 集合型施設が駅前できると賑わいのまちづくりの目標に近づく
 - 市民活動の交流広場には休憩（喫茶・食事スペース）がほしい
- せんだいメディアテーク（宮城県仙台市）
 - せんだいメディアテークのオープンスクエアは空間性が強い。ひとつの空間を様々な用途で。
 - （せんだいメディアテークのスタジオには黒板があるが、）机に書けるスペースがあれば子どもが楽しめそう
 - 建築が素晴らしい
- えずこホール（宮城県柴田郡大河原町）
 - （屋外と一体的に活用できる平土間ホールがあるが、）屋外と繋がることで解放感がある
 - 搬入もしやすい
- 安来市総合文化ホール（島根県安来市）
 - 音響が良く使いやすいホール
 - 大ホール（1000 席規模）と小ホール（300 人規模）があってよい
- 雲南市木次経済文化会館（島根県雲南市）
 - 演劇の取り組みが魅力的
- 岩手県オガールプラザ
 - 民間が施設を整備し、民間が地代を町に支払いながら運営。一部施設は町が買い取っている例。財政を圧迫しない施設の在り方例。
- その他意見
 - ホールは演奏会・演劇共存（できると良い）
 - 同じ空間で様々な用途（自由にレイアウトできる）と良い
 - 映画「目の見えない白鳥さんアートを見に行く」のような五感で触れる見る以外の展示があっても良いのではないか
- 各地域の利用者の声を拾い上げていくことも大切



④ グループワーク（テーマ②）

『鳥取市の新たな文化施設にはどのような機能・空間が必要だろうか？』というテーマでグループごとにディスカッションを行った。

【発表内容：Aグループ】

- 練習室
 - 防音機能のある練習室
 - 個人練習 4,5 人から団体練習 30 人程度まで対応
 - 可動式防音扉を使い、一体で使うことのできる練習室にできると良いのではないか
 - 用途によって使い方を変えることができる空間（練習スペース、展示室）
 - ◇ 平土間：体操に対応
 - ◇ リリウム：ダンスに対応
 - ◇ じゅうたん
- 会議室
 - 会議機能は必要だが、会議室は練習室と離れたほうが良い（音が響くため）
 - プロジェクター、マイクなど備品の設置も必要
- ホール
 - 音楽専用小ホール、演劇・展示専用ホールの設置が望まれる
 - 車イス席：コンサートでスタンディングになると見えないので見えやすい位置に設置。
 - エレベーターの設置
 - 広いトイレの設置
 - インバウンドの対応施設（例：麒麟獅子舞センター）
- 展示
 - 展示パネルケースの設置
 - 用途によって使い方を変えることができる空間（練習スペース、展示室）
- 駐車場
 - 駐車場の設置
- ホワイエ
 - 広いロビーホワイエ。イベントの実施や交流の場など様々な使い方ができる
 - ホワイエの一部をマットのスペースにして子どもが遊べるように。
 - ホワイエに隣接して子どもを預けられるスペース
 - 動物が入れることを前提とした施設（動物介在教育）
 - 移動式イス・机
- 学び
 - 学生が利用しやすいフリースペース
 - 学びスペース（今使っているイベントや活動について調べられるスペース）
 - 図書館と連携した学べる空間があっても良いかも
 - 体験や学びが多い空間
- その他・全体
 - とりぎん文化会館など今後も残る場所との差別化
 - ソフトとして多目的、ハードとして専用空間（多目的なハードなものをつくっても誰にとっても使いにくい空間になる）
 - 施設の統合：新しいものを作るだけでなく、既存の施設であまり使用されていないスペースを、他の

施設と統合して効率化を図ることも必要

- 観光＋地元：観光で訪れる施設と地元の施設の統合＋民間の店
- ソフト面（施設の使い方・マネジメント）
 - 貸館対応にとどまらない仕掛ける人材の確保
 - 24時間使える、夜間でも使える（鳥取は図書館はじめ、公共施設の空いている時間が短い）
 - 年齢問わずに使うことのできる施設
 - 行くのも展示や発表で使うのも気軽に利用できる、いいものが見られる施設
 - ハイローミックス：既存の大きな多目的ホール（梨花ホール）も活用して、小さな専門的なホールを多数つくる
 - 民間施設の活用：様々な団体企業が所有している会議室や、学校体育館など未利用時に貸し出すなど、資源を有効活用することが必要
 - 部活動の地域移行を支える場所（平日の稼働率、公共交通の利用促進）
 - 地域の文化活動を支える施設・設備の設置が第一。（現状では公共施設の老朽化により減少の一途をたどっている）



【発表内容：Bグループ】

- 練習スペース
 - 大小それぞれの大きさである程度の数が必要
 - 音楽だけでなく様々な使い方ができる空間をなるべく多くつくってほしい。音楽系の練習室と会議室は分ける必要があるが、可動式の防音壁があれば、スペースを区切ったり一体利用したりすることも可。練習だけでなく会議利用等さまざまな使い方ができる
 - 稼働率の低い時間帯の割引・レッスンやセミナー等での事業利用への割当
- ホール
 - 大ホール（1000～席）、小ホール（300～席）、ブラックボックス（演劇用）があると良い
 - 自由にレイアウトが変えられて複数の用途で使える
- 展示スペース
 - 多目的ホールのひとつとして大小かねて使える空間にする
 - 鳥取の美術の拠点
 - 「みる」だけでなく「聴く」こともできるデジタル展示、体験型の展示

- 作品販売（ハンドメイドくらい気軽に販売されると良い）
- 交流スペース
 - オープンスペース、誰もが自由に出入りできる、明るい空間
 - 屋内階段（階段兼イスの役割）
 - ◇ ストリートピアノ・ダンスができる場所
 - 机や壁に文字等を書くことができる（ホワイトボード等）のスペース
 - 情報スペース（活動 PR やサークル紹介、イベント情報）
 - 休憩、飲食できる空間（食べにきたついでに文化・芸術に触れる）→事前に飲食企業にヒアリングする等で使いやすいハコにする必要がある
 - 専門家（アーティスト）がいる、相談できる場所
- 保管収納スペース
 - 大型楽器を保管できるスペース。大きなドアも必要
 - 貸しコンテナをエレベーター式駐車場のようにする（舞台や練習室に搬入しやすい配置）
- 駐車場
 - 大容量の駐車場が必要。鳥取はいずれも不足していて困っている。
 - （施設付帯駐車場が難しいのであれば）パークライドシェア、近隣の駐車場との連携
 - 搬入しやすい通路
- ソフト面（施設の使い方・マネジメント）
 - 文化施設にまつわる事業（教育普及、キュレーション、貸館、広報）に明るい職員の配置
 - 学びのある事業
 - 安定利用したい団体は、WS 等で市民への還元を行いながら施設を使う仕組み
- 全体
 - 活動団体が残らないとホール（発表の場）は不要になっていくため、ホールよりも練習・交流機能の割合を大きくする
 - 利用費用はなるべくおさえてほしい
 - 諸室が使用中であることがわかりやすいと良い（視覚的に使用状況がわかるデザインに）
 - きれいで清潔な施設
 - 身体障害者、高齢者に配慮した建物・空間
 - 多目的空間が無目的空間にならないように、専門家による検討が必要



V. 今後に向けて

全3回のワークショップを通じて、鳥取市における将来の文化活動や文化活動のために必要な施設・機能について検討を行った。ワークショップで議論された内容については、今後の基本構想の策定段階の検討の参考とする予定である。

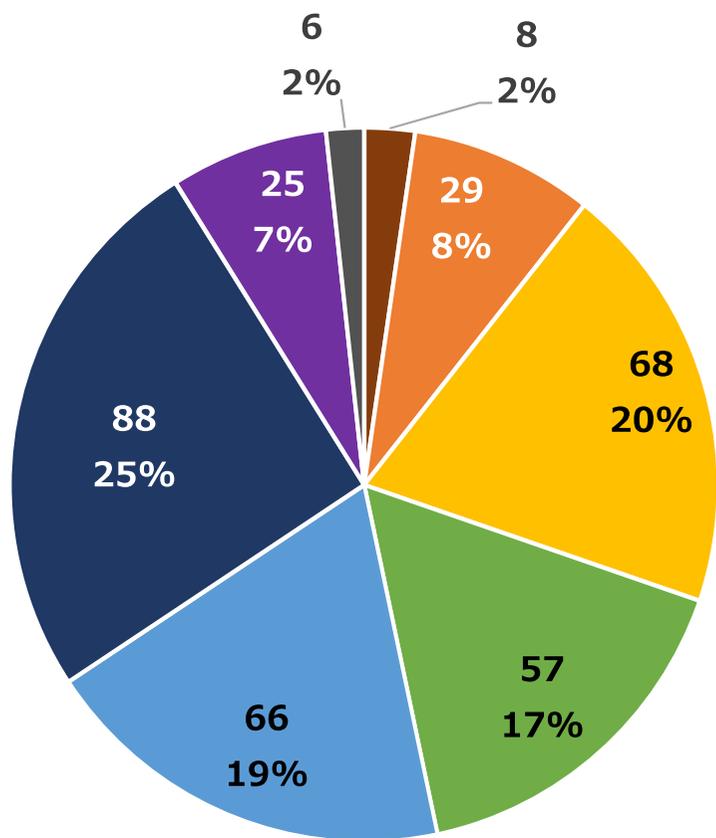
以上

鳥取市新たな文化施設に関するアンケート結果

- 調査期間： 令和6年11月28日から12月22日
- 調査目的： 鳥取市内の文化施設のあるべき姿を検討するにあたり、市民の文化活動の状況や文化施設に求めるものについて意見を把握する
- 調査方法： インターネット上でのオープンアンケート
- 回答数： 347件

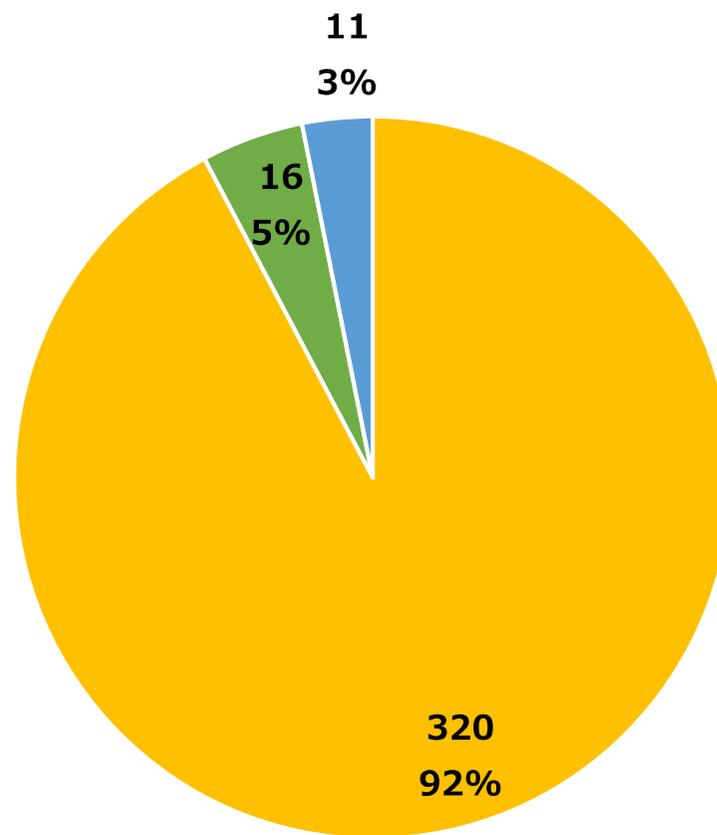
調査結果 (1) 回答者属性

①ご年齢



- 20代未満
- 20代
- 30代
- 40代
- 50代
- 60代
- 70代
- 80代以上

②お住まい



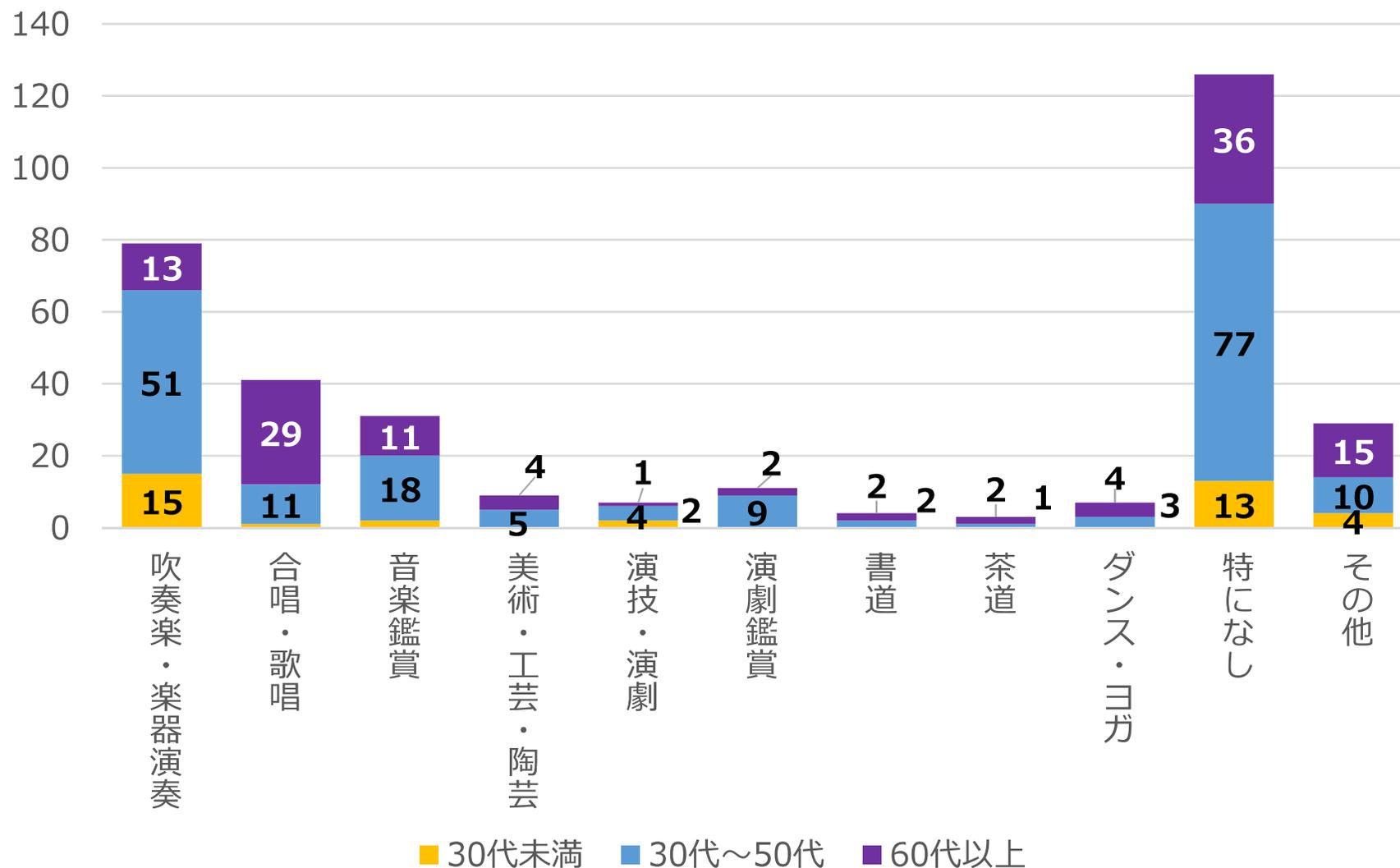
- 鳥取市
- 麒麟のまち6町
- その他

調査結果 (2) 文化活動の状況

① 習い事や部活動・サークル活動として、日頃から行っている文化活動はありますか。

日頃行っている文化活動は「特になし」と回答した人が126件となり、全体の36%を占めた。

文化活動を行っている人は、吹奏楽・楽器演奏79件(23%)、合唱・歌唱41件(12%)、音楽鑑賞31件(9%)の順で、音楽系に関する活動を行っている方が多い。



調査結果 (2) 文化活動の状況

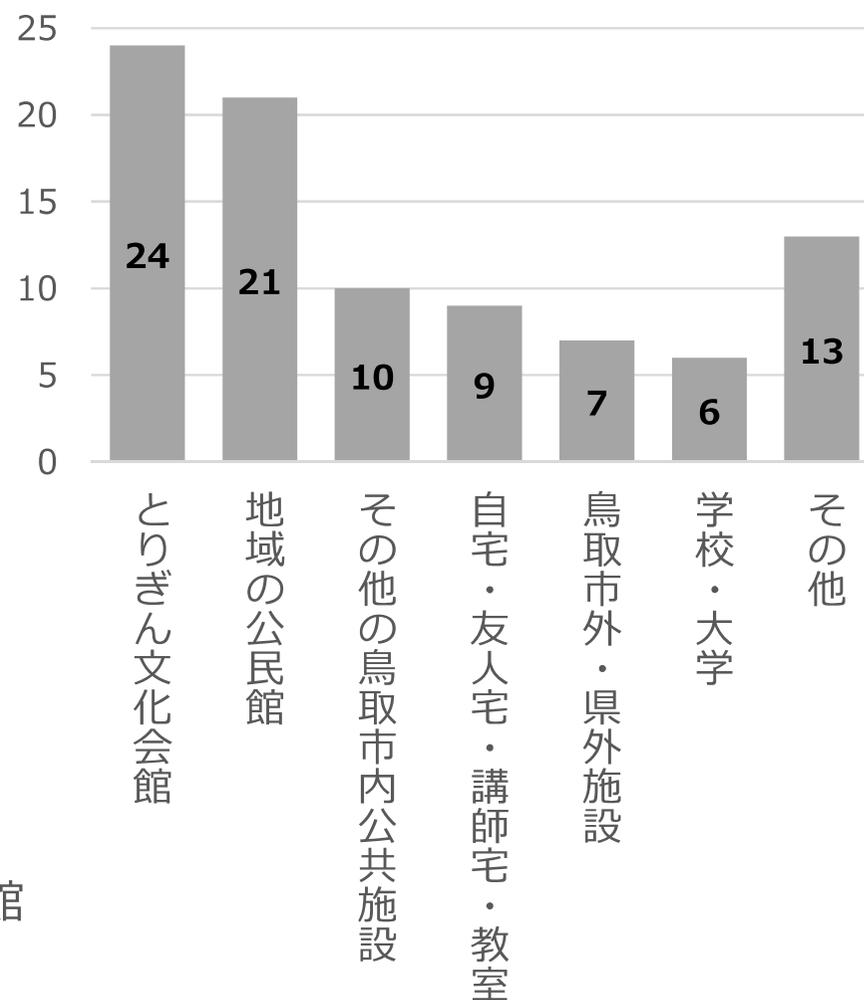
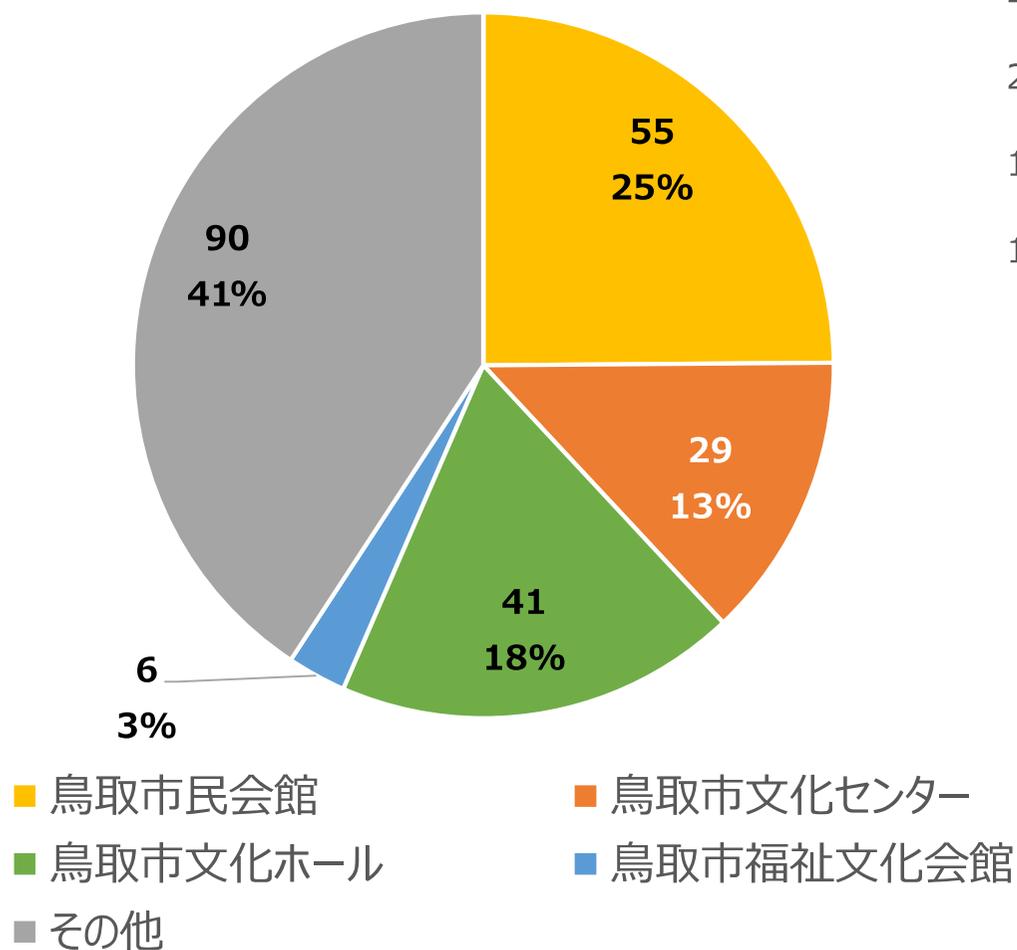
②前の質問で回答した活動はどこで行っていますか。

■「その他」回答の内訳

(前の質問で「特になし」と回答した人を除く)

日頃の文化活動では対象文化施設以外を利用する人が41%を占めた。次いで、市民会館55件(25%)、文化ホール41件(18%)、文化センター29件(13%)が多い結果となった。

なお、市民会館を利用する人のうち、前の質問で合唱・歌唱と答えた人が38%、吹奏楽・楽器演奏と答えた人が27%であった。



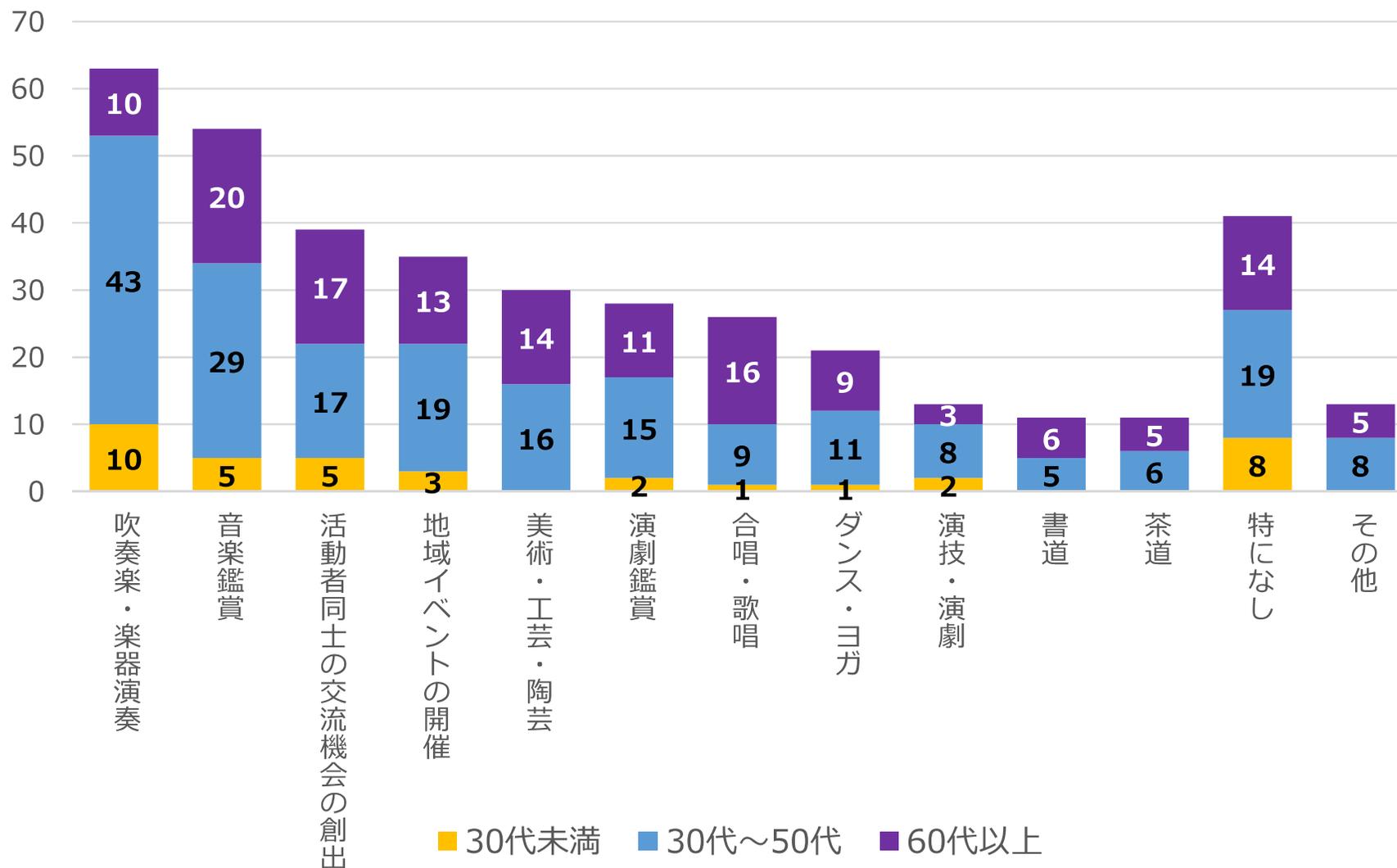
調査結果 (2) 文化活動の状況

③文化活動に関して、やりたいけどできないことはありますか。

(複数回答可)

やりたいけどできないことについては、吹奏楽・楽器演奏(63件)、音楽鑑賞(54件)が多い結果となった。次いで、活動者同士の交流機会の創出(39件)、地域イベントの開催(35件)という回答が多い。

なお、吹奏楽・楽器演奏と回答した63件のうち、42件は①の質問でも「吹奏楽・楽器演奏」と回答している。「(3)施設に求めるもの」の回答も踏まえると、気軽に、環境が整った場所で行いたいという意見であることがうかがわれる。

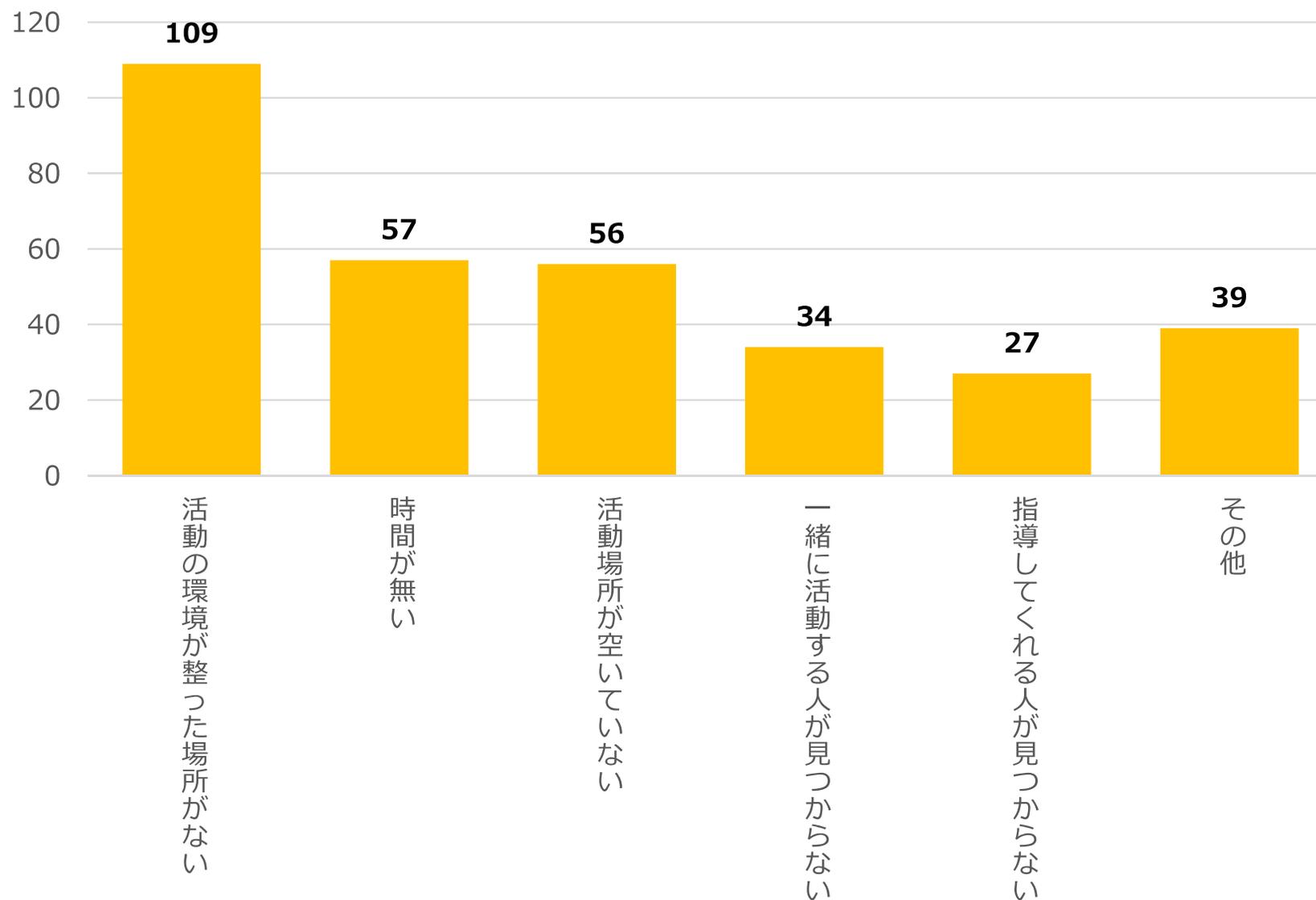


調査結果 (2) 文化活動の状況

④前の質問で回答したことができない理由は何ですか。

(複数回答可)

やりたい活動ができない理由としては、活動の環境が整った場所がない、場所が空いていないという環境に関するものに対する回答が多い。



調査結果 (3) 文化施設に求めるもの

鳥取市の文化施設にどのような場所・空間があれば利用したいと思いますか。

(自由記述)

【多く寄せられたご意見】

■ハード面（施設や機能について）

- **音響の良い小中規模ホール・スタジオ**
 - 小規模のホールやスタジオ、中規模ホール
- **十分な駐車場**
 - 施設規模に見合った十分な駐車場
 - 子連れや大道具の運搬時でも利用しやすい施設併設型の駐車場
- **十分な練習スペース**
 - 防音性のある練習室
 - 個人や少人数でも使いやすい練習室
- **楽器等の收藏・保管ができる**
- **休憩できる飲食・カフェなどがある**
- **他者と交流できる空間・機会がある** ほか

■ソフト面（施設の在り方やサービスについて）

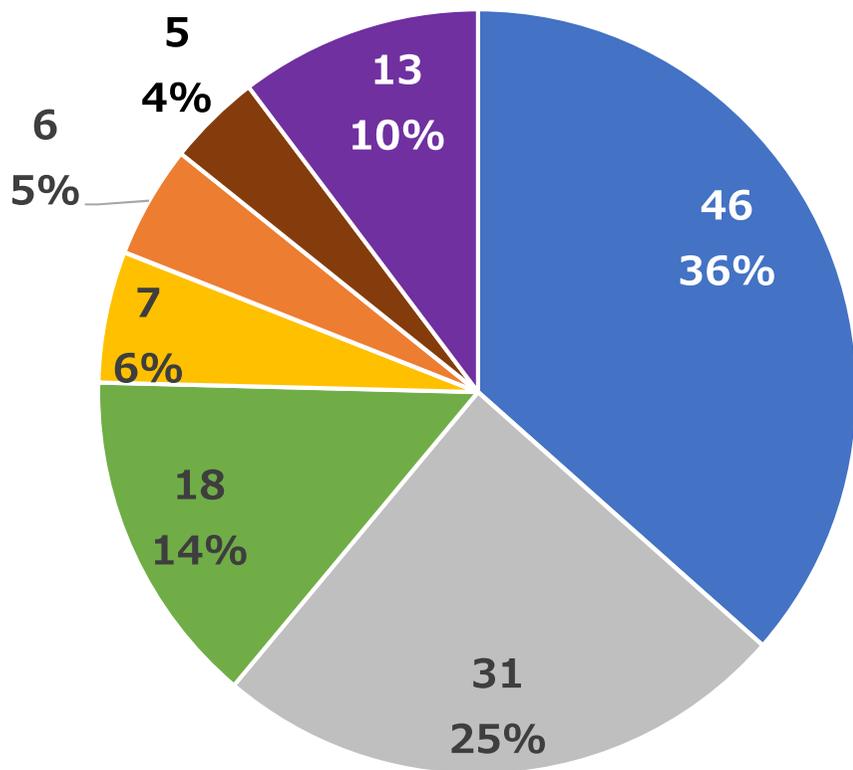
- **気軽に利用できる施設**
 - ふらっと立ち寄った時に活動できる
 - いつでも利用できる場所がある
- **日常的にイベントやワークショップの開催がある**
 - 常時気軽に参加できるイベントが開催されている
 - 土日や夜間にもイベントやワークショップが開催される
- **子どもや若者が利用しやすい**
- **使用料が安価**
- **イベントや文化活動の情報提供がされている**
- **いつでも好きな時間に利用できる** ほか

調査結果 (4) 現在文化活動を行っていない方向け

※(1)②の設問にて、日頃行っている文化活動は「特になし」と回答した人を対象

■ 文化活動を行っていない理由は何ですか。

■ 鳥取市の文化施設にどのような場所・空間があれば利用したいと思いますか。



- 時間が無い
- 関心がない
- どう始めて良いかわからない
- 活動の環境が整った場所がない
- 一緒に活動する人が見つからない
- 指導してくれる人が見つからない
- その他

【多く寄せられたご意見】

- 立ち寄った時に気軽に利用できる
 - いつでも立ち寄ることができ、気軽に文化活動の体験ができる
 - 時間帯が合わずに活動できないということがない
- 子どもが利用しやすい
 - 子ども向け・親子向けイベントの開催
 - 子どもが遊べる空間の拡充

新たな文化施設のコンセプト素案について

1. 新たな文化施設を取り巻く意見・課題の整理 ～ワークショップ・アンケートを踏まえて

- ✓ ワークショップ、ウェブアンケートより「みる・する・ささえる」に加えて、「つながる」の視点で意見・課題を整理
※第2回会議では「既存施設の利用状況」「将来動向」「ヒアリングの結果」を踏まえた課題を整理（第2回会議資料を参照）

みる

- 学びの要素が含まれるようなみる機会や、アートの価値観の変化等に対応したみる機会等への意見がある（例：対話鑑賞＝対話しながら舞台等を鑑賞、「みる」だけではなく「聴く」こともできるデジタル展示、触れるアート・味わうアート・分野横断のアートなど）

する

- 小人数を対象とした演劇やイベントの実施主体にとっては、利用料金・活動に適した施設（規模・設備）等の関係から既存施設の利用は敷居が高く、多様なニーズに対応できていない可能性（→練習室等を兼用した演劇・イベント等の開催が可能になるなど、計画面での工夫が必要）
- 演奏会や練習等のほか、様々な対象・内容の“する活動”に対するニーズ・要望がある（例：若者・子どもを含む多様な世代が興味を持てるイベント等の開催、実験的な公演、伝統芸能など歴史の継承に係る活動等）

ささえる

- 部活交流や部活動の地域移行を支えられる場が今後は特に重要
- 若年層や既存施設のライトユーザーにとっては、する・みるに成長するための機会が見込みにくい（→早い段階で美術・芸術に触れる・学べる体験、気軽に参加できる環境、地域での下支えが必要）
- 文化芸術活動の担い手・活動団体の減少を踏まえ、する活動を支える技術スタッフの育成やサポート体制を構築することで、地域の文化・芸術活動の安定的な実施や活性化につなげることが必要

つながる

- 人と人をつなぎ、コミュニケーションや交流ができる場に対する期待がある
 - 市民が気軽に立ち寄り、交流できる場（→子ども、学生、社会人、シニアなど多様な人が利用できる）
 - 文化芸術活動を行っている人同士がつながる場（→新たな活動の創出にもつながる）

- 文化芸術活動の多様化・細分化が進む中で、新たに活動をはじめることや活動を継続することのハードルの高さはあるものの、新たな文化施設が、創造・体験・学びが得られる場であること、多様な人々が気軽に交流できる場であること、それらの活動・交流を支える機能の必要性などについての示唆が得られた

2. 基本構想の基本となる考え方（案） ～多様化する文化芸術活動の尊重と文化形成

【関係者ヒアリングやワークショップ等を踏まえた基本認識】

- ✓ 文化芸術活動の内容は幅広く、また活動に関わる主体（の規模・体制）も様々
- ✓ これまでの文化芸術活動への関わり方、関心度、既存施設の利用経験等によって、施設に対する課題認識や機能のあり方に対する市民の意識に違いがある

【基本認識に対する考え方】

- ✓ （意識に違いがあっても）それぞれの活動や各主体の意欲は尊重されるべきもの
- ✓ 文化芸術活動の担い手は減少傾向にあるが、新しく活動を「はじめる」ことや、関心・意欲のある市民の文化芸術活動を「はぐくむ」ことのできる環境が肝要
- ✓ 様々な活動や交流を通して、市民一人ひとりの関心度や経験値が成熟・変容していくことが個々人の自己形成や自己表現、自己実現に貢献し、結果として「はばたく」きっかけをつくることになる

あらゆる文化芸術活動や活動に対する意欲を尊重するとともに、多様な市民や活動が交わること、また、そうした交流・活動を支え、発信することが、地域の文化を形成し、文化芸術をみらいにつなぐことにも寄与（次世代への継承）

3-1. 基本理念（素案） ～理念と3つのステージ

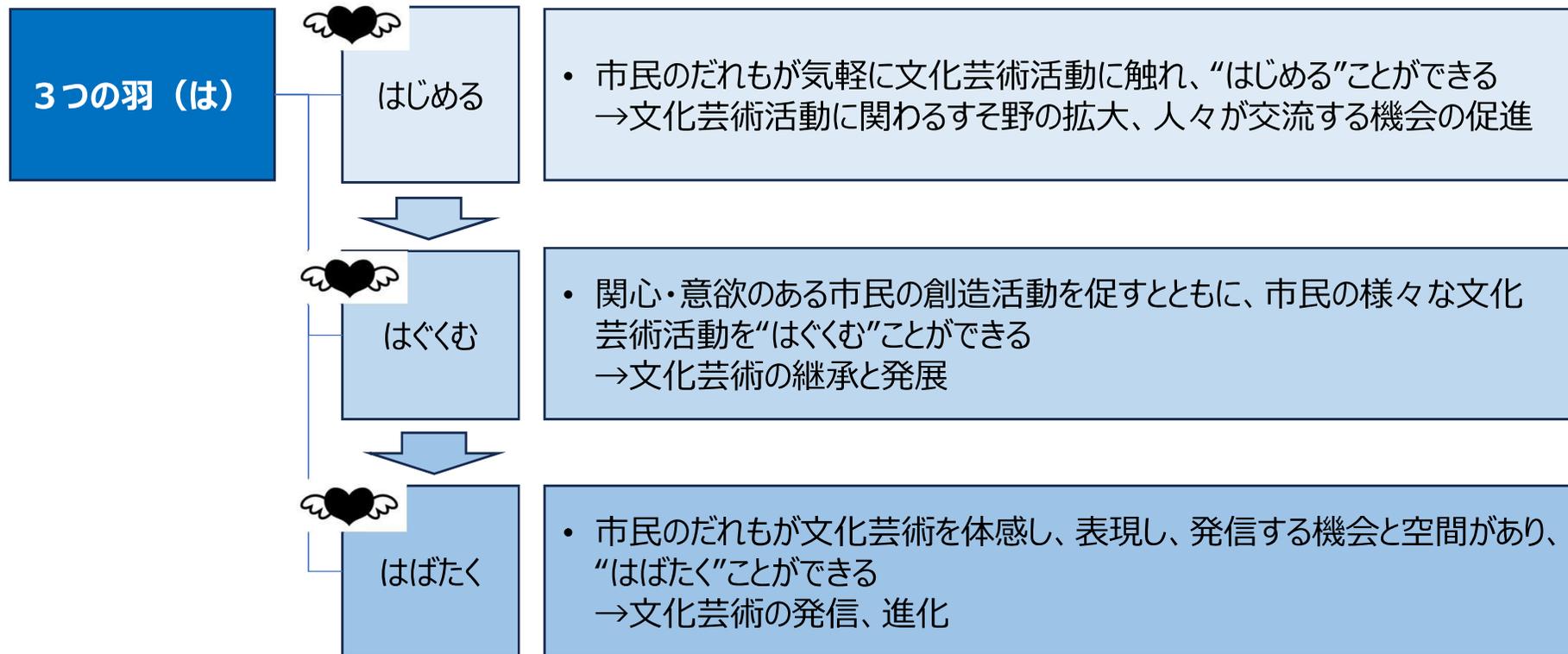
【基本理念】

みらいをつくる Art Incubation Hub

（あるいは Hub for Everyone's ART = HEART）

～ひとりひとりが文化芸術に触れ、参加し、つながることのできる鳥取市の文化芸術の拠点

大切にしたい活動のステージ



※Incubation（インキュベーション：羽化・ふ化を語源とする育成・支援の意味）

※Hub（ハブ：拠点、結節点）

3-2. 基本理念（素案） ～理念を支える5つの場

基本理念を支える5つの場

① オープンな雰囲気、市民のだれもがアクセスでき、参加できるフレンドリーな場

【Open/Friendly/Accessibility】

- だれにでも開かれ、日常的に、気軽に利用できる
- 常に何かの活動が行われており、だれでも参加できる、身近に感じられる
- 初心者も気軽にはじめることができる
- 多くの人が集い交流することができる

② ひとりひとりが多様な活動で創造し表現することを促す場

【Creativity/Expression】

- 特定のジャンルに縛られず、市民の多様な文化芸術活動に対応できる
- 新しいものとの出会いがあり、新たな創造活動につながる
- 体験や学びとともに、一から創造する体験ができる
- 人が見える、活動が見える
- 癒しを得る、生きていく活力になるような体験が自主的にできる

③ 市民が自らの成果を発表・発信できるとともに、新しい文化芸術活動も体感できる場

【Experience/Edge】

- 市民が自らの文化芸術活動の成果を表現し、発信することができる
- あらゆる市民が文化芸術に触れ、多様な文化芸術作品を体感できる
- ここに来たら新しい・最先端の何かを見る・体感することができる
- 県内の伝統工芸や伝統芸能を含め、鳥取の文化を守り・地域で繋げていく芸術の拠点

④ 多様な人々をつなぎ、活動し続けられる支えあう場

【Connect/Develop/Communicate】

- 活動や情報、鳥取の魅力の発信がされている
- 活動間の情報交換・交流・連携をうながす
- 市民の活動をサポートし、文化芸術を継承し、創造し、発展させる

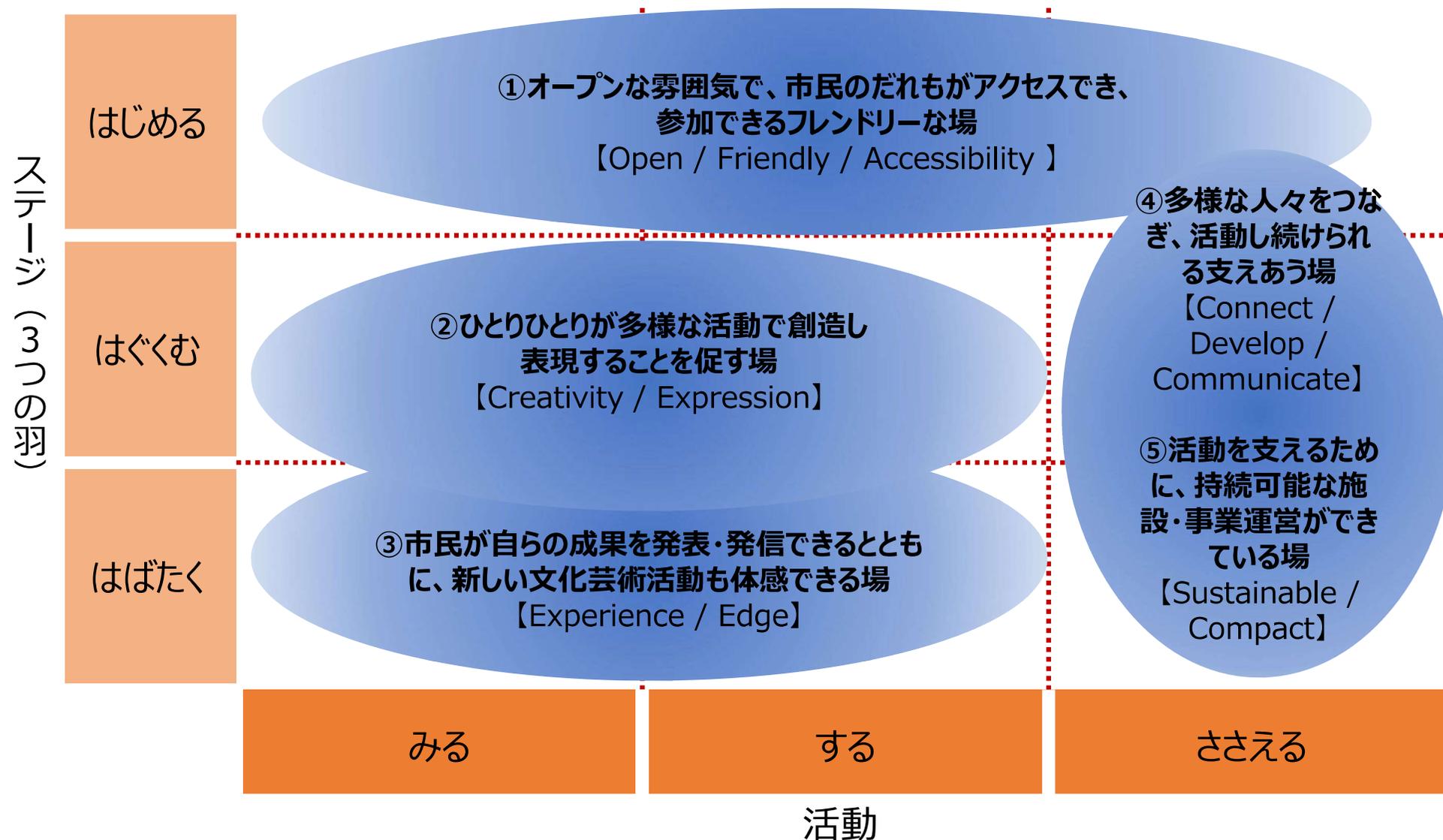
⑤ 活動を支えるために、みらいにわたり持続可能な施設・事業運営ができている場

【Sustainable/Compact】

- 活動の身の丈にあった、真に必要な機能がある空間
- 持続可能な体制、持続可能な運営が行われている施設

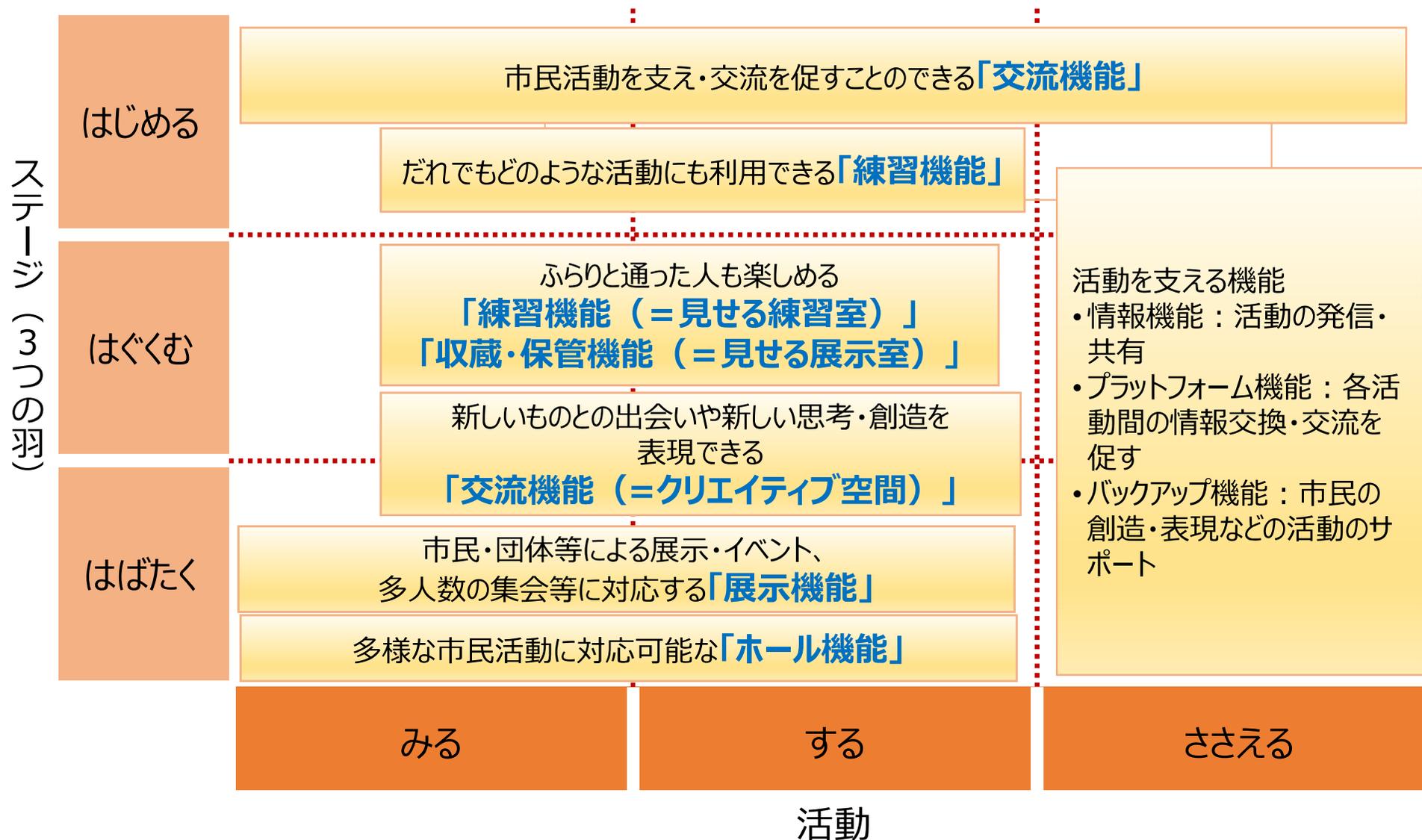
3-3. 基本理念（素案） ～5つの場とステージ・活動の関係

➤ スタージ（3つの羽）と、みる・する・ささえるの活動に対する、5つの場の関係



3-4. 3つの羽と活動に対する基本機能の整理

- 有識者会議、ヒアリング、ワークショップ、アンケートなどの意見を踏まえてコンセプトの視点と方向性を整理



3-5. 基本機能と活動とステージの対応関係

□基本方針に示されている機能

機能		活動			ステージ		
		みる	する	ささえる	はじめる	はぐくむ	はばたく
ホール	●多様な市民活動に対応可能な『ホール機能』	○	○			○	○
練習スペース	●防音性能の高い『練習室』		○		○	○	
	●文化活動を表現する・見ることのできる『見せる練習室』	○	○		○	○	
交流スペース	●市民活動を支え、交流を促すことのできる『交流スペース・会議室』		○	○	○	○	
	●市民の誰もが創造し・表現することのできる文化芸術に係る『クリエイティブ空間』	△ 一部を 見せる空間に	○		○	○	○
展示スペース	●使い勝手の良い『展示スペース兼イベントスペース』	○	○			○	○
収蔵・保管スペース	●収蔵と展示を兼ね備えた『見せる収蔵庫』	○	○	○		○	○
駐車場	●『使いやすい駐車場』	○	○	○	○	○	○

□その他想定される機能（会議・WSでの意見を踏まえて）

育成・発信機能	●多様な市民活動を支えるための各種支援・情報発信を行う機能			○	○	○	○
---------	-------------------------------	--	--	---	---	---	---

【参考】 第2回会議資料（抜粋）

- 資料2-7_新たな文化施設を取り巻く課題の整理
- 資料3-2_コンセプトの検討について（抜粋）

- ✓ 「既存施設の利用状況/データ分析」「将来動向」「ヒアリングの結果」などを踏まえ、以下の3つの視点で課題を整理
 →①ヒト：文化活動、②モノ・ハコ：施設・機能、③まち：まちとのかかわり

①ヒト ～ヒトによる文化活動

みる

- 集客・収益性を要因として、市内の興行系イベントの開催頻度が少なく、**リアルな文化芸術に触れる機会が減少**している
 →政策的/教育的な観点から、市民の見る機会を増やす対応が求められている（鑑賞会など）
- 対応可能な機能を有する施設がないことも要因のひとつとして、**高品質の音楽に触れる／鑑賞する機会が少ない**（※音楽系ヒアリングより）

する

- 市の人口減少にあわせて、文化団体協議会の登録団体/会員数も減少傾向にあるなど、**する活動そのものが減少**している
- ホール、展示機能：利用されているコンテンツの幅は広いものの、それぞれの活動に適した施設・設備等が備わっていないため、**多様なニーズに対応できていない可能性**がある
- 収蔵・美術館に係る要望はあるものの、**財源の問題に加えて、学芸員の確保・運営主体等のあり方・関係機関との調整**が必要

• 演劇・踊りなどの利用については利用者ヒアリングを実施予定
 • これまで施設を利用していない市民の意見はワークショップやアンケートで確認予定

• 関係団体等へのヒアリングやワークショップ等でも意見聴取

ささえる

- 文化芸術活動を行う人の減少や部活動の地域移行も見込まれ、**市民（特に若年層）がする・みるに成長するための機会創出が見込みにくい**（→地域での下支えが必要）
- 文化芸術を通じた**次代を担う子供たちの育成や地域コミュニティの活性化**に資する取組・活動が必要
- 高齢者や障がい者を含め、あらゆる人々が文化芸術活動を通して社会に参画し、**多様な価値観が尊重されるような環境整備**が必要（→場や支える仕組みづくり）

②モノ・ハコ ～施設・機能

- 施設全般
 - いずれの施設も稼働から50年前後が経過し、施設・設備が老朽化しており、バリアフリー対応、動線、諸室のスペックなどが十分ではない（→結果的に施設の使い勝手の観点から利用が限定的となっている可能性）
- ホール機能
 - 市民会館では1,000席のキャパシティを十分に活用できていない利用が多い
（→規模の大きな興行系イベントはとりぎん文化会館とし、規模に応じたすみ分けをすることができないか）
 - 市民会館・文化ホールに関し、一定規模のホールが確保できた場合でも、両施設の土日の稼働が高いため、既存コンテンツや今後のニーズを吸収しきれない可能性
（→他の施設との利用の分散の可能性はないか）
 - 対応するコンテンツに合わせたホール形態（固定席/平土間）の検討が必要
（→今後の活動の多様化や施設の柔軟性を踏まえると平土間が望ましいか？）
- 展示機能
 - 現在、県立博物館で行われている市美術展の開催に対応できる市の施設はない状況
（→市美術展の開催には約1,000㎡が必要とあるため、県とのすみ分けを考えることができないか）
 - 展示機能：展示・書道・華道など、多様な活動が行われているが、活動に適した施設・設備のスペックが不足
- 練習機能
 - 防音性能を備えた練習室がないなど、市民の活動に適したスペックの練習室が不足

③まち ～まちとのかかわり

- 現在は各施設とも交流・賑わいを創出するようなまちとのつながりや機能はほぼない状況
- これまで文化施設を利用していない層も含め、あらゆる方が気軽に集い、活動できる空間が少ない
（→エリアで賑わいの創出ができるような空間・運営のあり方や、回遊性をもたらす施設やエリア形成の検討が必要）

資料3-1 コンセプトの検討について

■第1回 新たな文化施設の整備に関する有識者会議

【委員の皆様から頂いた〈理想の文化施設〉に関するご意見】

※第1回新たな文化施設の整備に関する有識者会議議事録より、施設の在り方に関わる意見をキーワードとして抽出（一部語尾等を調整）

- 人の幸福にかかわること、癒しを得る、生きていく活力になるような体験が自主的にできる施設
- 音楽や美術・演劇の分野で、毎日のように何か活動ができる場所
- 日常的に市民が利用できる施設
- 子どもが文化芸術に触れる機会を提供できる施設
- 様々な人が集う、考える場所をつくるには、指針をもって進めていく人が必要
- ものづくりワークショップ等、一から創造する体験の場所
- 「ここにきたら何か体験ができる」という場所
- 県内の伝統工芸や伝統芸能など、地域で繋げていく芸術の拠点

2-1. 検討の方向性について：文化芸術活動の全容と多様性

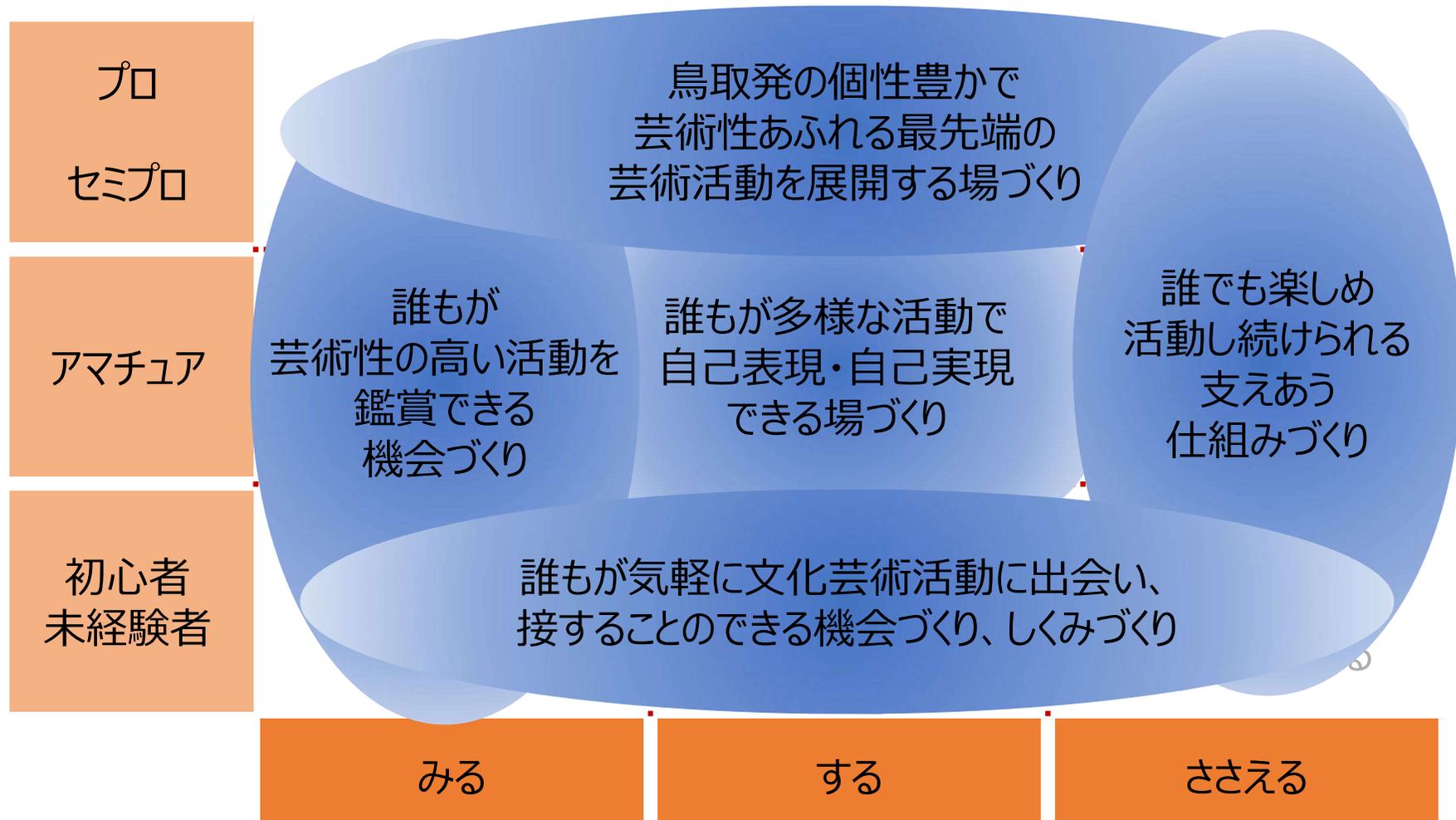
【参考】第2回会議資料

- 市民一人一人の関心度、経験値、熟達度に応じて、多様な文化芸術活動が存在
- それぞれの活動は尊重されるものであり、相互に作用するもの
- 様々な活動を通してそれぞれの関心度や経験値、熟達度が成熟変容していくことが個々人の自己形成や自己表現、自己実現に貢献

プロ		演じる	
セミプロ	刺激を受ける	研鑽する	応援する
アマチュア	のめり込む 憧れる 親しむ	披露する 勤しむ 嗜む	ひろげる つながる
初心者 未経験者	触れる 知る 出会う	学ぶ 体験する	教える 楽しさを伝える 手を差し伸べる
	みる	する	ささえる

2-2.検討の方向性について：課題にみる打ち手の方向性

- 整理した課題を踏まえると、市民一人一人の自己形成・自己表現・自己実現に貢献する文化芸術活動を充実させるには、以下のような方策が求められるのではないか
- これらの方策のうち、必要のないもの、あるいは劣後してよいものはあるか
- 反対にこれら以外にもっと必要な方策はあるか



■新たな文化施設で想定する基本機能

※諸室・機能のイメージは、有識者会議、ワークショップなどの意見を踏まえて整理

資料2-5

□基本方針に示されている機能

	想定される機能・諸室	機能のイメージ	規模のイメージ
ホール	●多様な市民活動に対応可能な 『ホール機能』	・既存の文化ホールの機能向上を図り、 <u>一定の音響性能を完備</u> ・音楽・舞踊・演劇公演、式典・発表会・イベントなど <u>多様な用途、多様な市民活動による利用に対応可能なホール</u>	・利用実態・ニーズや他ホールとのすみ分けも踏まえ、 <u>小規模（300～600席）</u> を想定
練習スペース	●防音性能の高い 『練習室』 ●文化活動を表現する・見ることのできる 『見せる練習室』	・ <u>防音性能を確保</u> し、いつでも、だれでも、どのような活動にも対応可能な練習室 （個人利用や多人数の合唱団・劇団による利用のほか、練習スペースを用いた小規模イベント等に対応可能なスペース） ・ <u>外から活動を見ることが出来る練習室</u> →外に向けて日常的に表現活動を見せることもできる場 →人が見える・活動が見えることで、市民が新たな文化活動に関心を持ち、また、ふらりと通りかかった人も楽しめる空間	・文化ホールにおける利用ニーズや要望を踏まえ、 <u>大きさ（少人数～多人数）、スペック（鏡、パトーン等）の異なる練習室</u> ・ <u>大きさ・スペックの異なる複数の練習室</u> ・練習室と交流スペース（多目的空間）の一体利用も想定（＝小規模イベント・公演・展示の実施も可能とする）
交流スペース	●市民活動を支え、交流を促すことのできる 『交流スペース・会議室』 ●市民の誰もが創造し・表現することのできる文化芸術に係る 『クリエイティブ空間』	・文化芸術に限らず、 <u>幅広い分野にわたる活動</u> ができるほか、オープンな雰囲気、情報交換、会議、学習、休憩など、市民・団体・学生など、 <u>誰でも気軽に使用することのできる交流スペース</u> （例：コワークスペース、会議、イベント、カフェ・飲食可能なスペースなど） →市民が気軽に立ち寄り交流ができる場 →同じような活動している人とのつながりの場 ・多様な活動に対応できる多目的スペース（＝ <u>クリエイティブ活動のための空間</u> ） →新しいものとの出会いや新しい思考・創造を表現することのできる場 →特定のジャンルに縛られない多機能に活用可能なスペース →集まる人々によって新しい風景が生まれる場 ・ <u>市民活動・ワークスペースとしての活用</u> のほか、 <u>少人数を対象とした演劇、音楽イベントなどクリエイティブな活動にも対応できる空間</u>	・ <u>大きさの異なる複数の諸室を配置</u> 。他の空間との一体利用も想定 ・ <u>大きさ・スペックの異なる複数の空間</u> （多様なクリエイティブ活動可能な設え） ・一部の諸室は外に開かれた（見せる）空間とする
展示スペース	●使い勝手の良い 『展示スペース兼イベントスペース』	・市民・団体等による展示・イベント、多人数の集会等、 <u>多目的な利用に対応可能な展示スペース</u> （美術、書道、華道などのイベント・展覧会に対応）	・現在、行われている展示系イベントには対応できる規模・設え（但し、市美術展は規模が大きいため、 <u>従来通り、県立博物館の使用を想定</u> ）
収蔵・保管スペース	●収蔵と展示を兼ね備えた 『見せる収蔵庫』	・地元芸術家などの作品の収蔵や大型楽器などの保管に対応可能な <u>収蔵・保管機能を確保</u> するとともに、展示も兼ね備えた <u>外から見える収蔵庫</u> →収蔵に展示を兼ねることで、市民が自然に文化に触れる機会を創出 ※収蔵庫の整備までに、収蔵品の棚卸・仕分け（県との役割分担）等が整理されていることが前提	・規模は、収蔵する美術品の内容・量による（※ <u>収蔵品の棚卸・仕分け</u> が必要） ・交流機能や展示機能の空間と一体利用することで、展示の実施も想定
駐車場	●『使いやすい駐車場』	・2輪車、普通車（ハートフル含む）など、各種車両に対応可能な駐車場	・立地、施設内容に応じる

□その他想定される機能（会議・WSでの意見を踏まえて）

育成・発信機能	●多様な市民活動を支えるための各種支援・情報発信を行う機能	・専門家だけでなく、 <u>市民の創造・表現などの活動をサポートする情報収集・発信の場</u> →創造活動に関する多様な相談機能 →多様な世代に向けたイベント・ワークショップの企画・開催の実施等 （例：子供向けのワークショップ開催、親子参加型のイベント開催、中高生向け、美術・芸術に触れる体験の場、人材育成のための学びの会など） ※人員や組織を置くなどの体制を構築するかは、コスト・体制等を踏まえて、今後検討	・諸室は交流機能と兼用
---------	-------------------------------	--	-------------

新たな文化施設の基本機能 ～シナリオ①

○想定シナリオ

- ・短期：駅周辺において、現文化ホールの機能向上を図ったホール、練習室、交流スペース・会議室、展示・イベントスペースの機能のほか、文化芸術に係る支援・情報発信機能も有する、文化芸術を育むことのできる文化拠点施設整備（新設）
- ・長期：市内拠点において、市民の芸術活動を見せる・感じることのできる交流施設として、見せる練習室や見せる収蔵庫を整備（既存施設のリニューアル）

○上記シナリオにおける既存施設の状態

- ・市民会館：当面は改修して使用を継続するものの、将来的には（次々回の改修のタイミング）では、ホール機能（約1000席）の存廃について検討。施設のリニューアルを検討
- ・文化センター・ホール：既存の文化ホール機能（ホール500席、練習室）をグレードアップして駅周辺に移転整備。新たな文化ホール機能を整備したあと、既存施設は廃止・解体
- ・福祉文化会館：耐震性がないため、機能は廃止・解体

	短期（5～10年以内）	中期（10～15年以内）	長期（15年～）
既存施設			
市民会館	改修		施設のリニューアル（市民会館機能の検討）
文化センター・ホール		廃止→解体（文化ホール機能を向上させ移転）	
福祉文化会館	廃止→解体		
駅周辺	<div style="background-color: #f08080; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">文化拠点施設（新設）</p> <p>多様な時代の市民の文化芸術を育む場の創出</p> <p>【機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な市民活動に対応可能な『ホール機能』（300-600席） ・防音性能の高い『練習室』 ・市民活動を支え、かつ、交流を促すことのできる『交流スペース・会議室』 ・使い勝手の良い『展示スペース兼イベントスペース』 ・多様な市民活動を支えるための各種支援・情報発信を行う機能（ソフト） <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅前敷地が限られており、想定する機能の充足が可能か ・再開発事業における民間機能との面積配分が適切にできるか </div>	<p>文化拠点施設の整備後に廃止（＝ホール機能は継続）</p>	
中心拠点			<div style="background-color: #fff9c4; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">文化交流施設(施設のリニューアル)</p> <p>市民の文化芸術活動を見る・感じることができる文化交流拠点</p> <p>【機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化活動を表現する・見ることのできる『見せる練習室』 ・収蔵と展示を兼ね備えた『見せる収蔵庫』 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民会館の機能の存廃に対する市民の理解 ・「収蔵兼展示」に対する関係者の理解 </div>

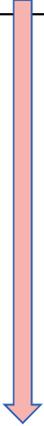
新たな文化施設の基本機能 ～シナリオ②

○想定シナリオ

- ・短期：駅周辺において、市民が行う創造・表現活動に対応できる多目的スペースを設け、クリエイティブ活動が常に行われ、駅を行きかう人もその活動を見える・みられる空間とする（新設）
- ・中期：市内拠点において、現文化ホールの機能向上を図ったホール、練習室、交流スペース・会議室、展示・イベントスペースの機能のほか、文化芸術に係る支援・情報発信機能も有する、文化芸術を育む文化拠点施設を整備（新設）
- ・長期：市内拠点において、民間投資も視野に広場機能との一体的な利活用を図る空間を想定（将来的な活用策の検討）

○想定する既存施設の状況

- ・市民会館：当面は改修して使用を継続するものの、将来的には民間投資も含めた広場と一体活用を検討（将来的な活用策の検討）
- ・文化センター・ホール：既存の文化ホール機能（ホール500席、練習室）をグレードアップして中心拠点で整備。現施設での建替となる場合、現文化ホールの既存機能は一時中断される（駅周辺のクリエイティブ空間で小規模イベントは対応）
- ・福祉文化会館：耐震性がないため、機能は廃止・解体

	短期（5～10年以内）	中期（10～15年以内）	長期（15年～）
既存施設			
市民会館	改修		将来的な活用策の検討
文化センター・ホール	廃止→解体（文化ホール機能を向上させ建替）		
福祉文化会館	廃止→解体		
駅周辺	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">クリエイティブ活動拠点（新設）</p> <p>市民の芸術文化活動を見る・感じることのできる開かれた空間</p> <p>【機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の誰もが創造し・表現することのできる文化芸術に係る『クリエイティブ空間』 <p>※クリエイティブ空間の諸室の設えや諸室の一体利用で、『見せる練習室』『交流スペース・会議室』『展示兼イベントスペース』として活用 例）展示・公演・イベント・（小規模な）演劇での利用、市民活動・ワークスペースとしての活用</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅前敷地が限られており、想定する機能の充足が可能か ・再開発事業における民間機能との面積配分が適切にできるか </div>	 <p>（現地建替となる場合） 文化ホールの機能が一定期間停止 （解体・整備期間の約4年）</p>	
中心拠点		<div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">文化拠点施設（新設）</p> <p>多様な時代の市民の文化芸術を育む場の創出</p> <p>【機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な市民活動に対応可能な『ホール機能』（300-600席） ・防音性能の高い『練習室』 ・文化活動を表現する・見ることのできる『見せる練習室』 ・市民活動を支え、かつ、交流を促すことのできる『交流スペース・会議室』 ・使い勝手の良い『展示スペース兼イベントスペース』 ・収蔵と展示を兼ね備えた『見せる収蔵庫』 ・多様な市民活動を支えるための各種支援・情報発信を行う機能 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現文化ホールでの現地建替となる場合、ホール機能の中断期間（約4年）が発生（→小規模イベントはクリエイティブ空間で対応） </div>	<div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">将来的な活用策の検討</p> <p>民間投資も含めた広場機能と一体的な利活用が図られる機能</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり（2核2軸）の拠点として、民間投資も含めた活用策を検討 </div>

新たな文化施設の基本機能 ～シナリオ③

○想定シナリオ

- ・短期：駅周辺に、市民が行う創造・表現活動に対応できる多目的スペースを設け、クリエイティブ活動が常に行われ、駅を歩きかう人もその活動を見える・みられる空間とする（新設）
- ・長期：現市内拠点において、現文化ホール機能向上を図ったホール、練習室、交流スペース・会議室、展示・イベントスペースの機能のほか、文化芸術に係る支援・情報発信機能も有する、文化芸術を育む文化拠点施設を整備（新設）

○想定する既存施設の状況

- ・市民会館、文化ホール・文化センター：いずれの施設も当面は改修して使用を継続。長期的には、市民会館敷地＋広場一部にてホールを建替え
- ・福祉文化会館：耐震性がないため、機能は廃止・解体

	短期（5～10年以内）	中期（10～15年以内）	長期（15年～）
既存施設			
市民会館	改修		廃止→解体（同敷地に文化拠点施設を整備）
文化センター・ホール	改修		廃止→解体（文化ホール機能を向上させ移転）
福祉文化会館	廃止→解体		
駅周辺	<p style="text-align: center;">クリエイティブ活動拠点（新設）</p> <p>市民の芸術文化活動を見る・感じることのできる開かれた空間</p> <p>【機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の誰もが創造し・表現することのできる文化芸術に係る『クリエイティブ空間』 ※クリエイティブ空間の諸室の設えや諸室の一体利用で、『見せる練習室』『交流スペース・会議室』『展示兼イベントスペース』として活用 例）展示・公演・イベント・（小規模な）演劇での利用、市民活動・ワークスペースとしての活用 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅前敷地が限られており、想定する機能の充足が可能か ・再開発事業における民間機能との面積配分が適切にできるか 		
中心拠点			<p style="text-align: center;">文化拠点施設（新設）</p> <p>多様な時代の市民の文化芸術を育む場の創出</p> <p>【機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な市民活動に対応可能な『ホール機能』（300-600席） ・防音性能の高い『練習室』 ・文化活動を表現する・見ることのできる『見せる練習室』 ・市民活動を支え、かつ、交流を促すことのできる『交流スペース・会議室』 ・使い勝手の良い『展示スペース兼イベントスペース』 ・収蔵と展示を兼ね備えた『見せる収蔵庫』 ・多様な市民活動を支えるための各種支援・情報発信を行う機能（ソフト） <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民会館、文化ホールともに長期にわたって既存施設を改修利用すること